

後援会だより

親子でつづる法政の4年間

今までにない経験が
できた4年間



社会学部
宮里 遼大

何か、熱中して取り組めることをやりたい。高校時代に立てた、大学での目標です。しかし、明確な「何か」がなかった私は、親元を離れ、地元沖縄になんてものを求めて法政大学に入りました。そんな私が大学生活で力を入れたのが、ゼミとサークルの活動です。3年間のゼミ活動では、社会学の文献を読み、議論を交わしながら自分の問いと向き合う生活を送りました。ゼミ論文では、大学進

学や初めての就職にあたって、沖縄出身者は県内と県外をどのように選択するかという検証に取り組みました。沖縄を考へる言葉にするのは難しいけれど、これから見つめ、人が分かるように自分の考えを言葉にするのは難しいけれど、これまでにない学びができたよい機会でした。サークル「カフェ部」では、多摩キャンパスの近くの団地で、高齢者を中心とした地域住民と交流するカフェを月に数回開く活動をしていました。コーヒを入れてるだけではなく、住民の方と交流し、一緒に楽しめる空間づくりを目指しました。サークルの代表としてチームをまとめ、地域の方と連携を取ることには苦労しましたが、4年間続けられたのは、いつも温かく迎えてくれる住民のみさんのお



寺田団地でカフェ部の活動後の集合写真

卒業おめでとう



宮里 真弓

振り返れば、あっといふ間の4年間でした。最初はご飯は作れるのか、寒さに耐えられるのか心配することばかりでしたが、ゼミやサークル活動に生懸命な姿を見て、充実した大学生活を送っているように感じました。いろいろ人との出会いは、あなたを成長させてくれたと思います。私もあなたのおかげで、後援会活動を通して多くの方々に出会い、楽しい経験ができました。感謝しています。

社会人になっても、いろいろなことが起こると思います。法政で学んできた経験を生かし、あなたらしく進んでいってください。沖縄から応援しています。

人の心を学べた4年間



文学部
向井 沙織

人生で初めて「テスト勉強が楽しい」と思ったのは、憧れの文学部心理学科で学ぶことができたからです。この4年間は毎日充実していて、あっといふ間に卒業の時を迎えてしまいました。私は幼いころから「この人の本心は何だろう」と考えてしまうほど、人の心に興味を持っていたので、自分が好きなことを学べる大学では心理学を学ぼうと決まっていたんです。

入学当初は「念願の心理学科に入ったからには、納得のいく成績を取めよう」という目標を立て、努力を続けました。自宅では、授業で学んだことを家族に教え、アウトプットをするように心がけました。説明が言葉に詰まってしまった箇所は、自分が理解しきれないことの表れなので、重点的に復習し直すことができました。その結果、4年間にわたって自分の納得する成績を取め、目標を達成する力を身に付けることができました。

卒業論文では、越智啓太教授の指導の下、大学生の女性が恋愛相手と結婚相手に対して求める男性像の違いについて分析しながら、検討を重ねました。その結果、交際しているだけの恋愛相手に対してよりも、結婚を意識した相手に対しての方が、経済力や欠点のなさを求めることが分かり、この年代の女性が抱く恋愛観や結婚観を明らかにすることができました。自分の好きなことを4年間学ばせてくれた家族には、本当に感謝しています。社会人になっても、自分で立てた目標に向かって、妥協をせずに努力し続けていきたいです。



ゼミでも使用した越智啓太教授の本など

継続は有意義なり



人間環境学部
岩崎 雄大

今まで、何をやって長く続かないことばかりだった私が唯一、4年間全力で取り組めたこと、それが、大学に入ってからたまに見つけた児童福祉のボランティアサークル「児童文化研究会」でのボランティア活動です。

100人以上いるサークルで、代表を務めさせてもらったことで、かなり成長できたのではないかと思います。人をまとめることのほか、スケジュールの管理、イベントの企画と運営、ボランティア先との連絡など、やらなければならぬことがたくさんありました。特にイベントの企画などでは、社会人の方と関わる機会が多かったので、学生のうちから社会に慣れるという意味でも、やつよかったなと思っています。生のときから、いつか代表になると思っていたよ、「社会に出ても成功するよ」「うちの社員より優秀だ」と、皆さんからいだけた言葉が、何よりも今の自分の自信になっています。



学生サポートセンターでのボランティア団体表彰式

代表になる際は、年間の活動依頼を増やすという目標を立て、最終的には1.5倍まで増加させることができました。継続することが苦手だった私が、ここまで熱中できることを見つけたのは、本当に幸福です。

高校卒業後、一度挫折を味わった分、大人になったのでしようね。毎回、立派な成績で安心して法政大学の4年間を見送っていました。これからどんな人生を歩んでいくのでしょうか。これからは、うれしいこと、つらいこと、悲しいこと、悔しいこと、生きていくと、いろいろなことがありま。他に守るべき人の人生を背負っていくこともあるでしょう。ただ、年齢を重ねて振り返ったときに、さまざまな思い出が残る、山あり谷ありの人生の方が僕はいいと思います。いろいろな経験をしてくださいます。それが生きる力になると思います。頑張ってください。君の将来に乾杯！

経験の力



岩崎 徳男

卒業に寄せて



高野 早苗

「高校から続いていたゴルフをやりたい」と体育会ゴルフ部に所属。親としては、学業と両立させながら、いつまで続けられるのかと見守るばかりでした。そんな心配も弾き返すように、たくさん仲間、先輩にも支えられ、4年間継続することができましたね。学業と同様に、ゴルフを通じて学んだことは、今のあなたにとって、大きな財産となったことではないでしょうか。

4月からは社会人。法政の学生としてこれまで培ってきた学びを胸に、新たなスタートを切ってください。卒業おめでとう！！

「人」としての成長



経済学部
高野 彩夏

私の大学生活を振り返ると、「ゴルフ」の一言にまとめられるほど、ゴルフに時間を費やしました。これは、ただゴルフをすることに時間を費やした、という意味ではありません。

私は4年間、体育会ゴルフ部に所属して日々練習に励み、3年生では主務を務めました。アルバイトも、ゴルフ場やゴルフ練習場、ゴルフショップなど、ゴルフに関係するところで働いていました。最も力を注いだのは、ゴルフ部の主務の役割です。リーダーなどの自立つこと

が好きだった私にとっては、裏方でチームの「当たり前」をつくる主務の仕事は、地味ですが、とてもたくさんあります。しかし、今まで当たり前だった活動をしてきていたのは主務のおかげであつたと気付くことがあったからこそ、当たり前の毎日を過ごせていることに気付きました。私の大学生活は、チームの仲間や友達、監督やコーチ、大学職員の方々と、何よりも家族に支えられた4年間で、私1人では決して成り立ちません。周囲の人たちへの感謝の気持ちを改めて感じ、人として、大きな成長を得ることができました。学生にとって最も優先すべきは学業だと思いますが、私がゴルフに軸を置き、人として大きな成長を得ることが



合宿中のティーショット

できたのは、法政大学の「自由と進歩」の学風の下で過ごることができたからです。

これから、社会人という新たな人生の道に進んでも、法政大学で得たことを忘れず、成長し続けます。

4年間を振り返り



国際文化学部
佐藤健志朗

大学の4年間は多くの人と出会い、学んだ時間でした。さまざまな経験から印象的な思い出を一つ挙げるとすれば、法政大学英語研究会(通称HES)での活動です。HESは英語力向上と互いに修練する仲間をつくるために、英語を使う競技や企画をするサークルです。HESで幹部を務めた私は、組織運営の難しさに気付かされました。全体目標を組織の根幹として設定し、それに沿って活動内容を考えます。仲間たちとい

4年間を振り返って



経営学部
高山真由

4年前 大学入学を機に、親元を離れて一人暮らしを始めました。実家は大学から通える距離ではなかったのですが、両親は私の一人暮らしに賛成して、生活面について全力でサポートしてくれました。そんな両親のおかげで、大学の4年間を自由に学び、過ごせたことをまずは感謝したいと思います。

大学生活ではサークルやゼミ、アルバイトなど、さまざまな経験をしました。それぞれの場所でお会いした人々からは、

いろいろなアイデアのすり合わせを丹念に行うことで、納得のいく運営を1年間やり通すことができました。引退して次世代へバトンパスをした後、後輩が既にしておりと運営に取り組んでいるのを見ると、感慨深いものがあります。

競技では英語のスピーチに励みました。8分間ではいかにも聴衆を説得し、心を動かせたかを競う競技です。何度も原稿を書き直しながら、表情や身振り、文の言い回しの技術を高めて練習した結果、3年生のときには「法政大学総長杯争奪全日本学生英語弁論大会(総長杯)」で優勝することができました。優勝賞品としていただいた東京湾ディナークルーズチケットを両親に渡し、親孝行ができ

今までにない刺激を受けることができたと感じています。

大学1年生のときから、授業でお世話になった小林先生。先生のもの見方や懐の深さ、何よりもたくさんの人に慕われるその姿に多くのことを学びました。

直接的な関わりはなかったものの、たくさん本を読んで知識を取り入れること、考えて考えて考え尽くすこと、その楽しさを生き生きと教えてくれた伊藤先生。親身になって相談に乗り、最後まで向き合ってくれた筒井先生。ボランティアサークルで知り合った人々からは、素直な心意気に刺激を受けました。

今までに会った人々たちの思い出、期でお互いに励まし合い、悔しさも喜びも分かち合い、成長できたという実感を味わいました。ここでは語り尽くせないほど、いろいろな感情を知ることができました。



入学式前に撮った千鳥ヶ淵の桜並木

素晴らしい法政大学



佐藤利美

あなたがHESで頑張る、実りある英国への留学を経て、金額の榎木ゼミに参加。そうやって英語を極めようとする姿を頼もしく、うれしく思いつながら応援していました。私も後援会に携わり、その活動を通して素晴らしい出会いと「自由を生き抜く実習」の学風を感じられたことは、あなたのおかげだと感謝しています。人生の宝物のお友達を大事にして、学んだり、努力をしたりした経験を生かして、社会に貢献できる人になってください。

法政大学を卒業できることを、心から誇りに思います。本当におめでとう！

父から娘へひとこと



高山悦孝

皇居のお堀に咲く桜の季節の中、日本武道館で入学式に参加した時が矢のように流れ去り、まもなく同じ日本武道館で、卒業式を迎えます。よき恩師、よき友と巡り会い、法政大学で充実した学生生活を送ることができたね。私自身も後援会を通して、教職員の方々や後援会関係者の皆さまと出会い、さまざまな楽しい体験ができました。心から感謝しています。

2年生でのマレーシア短期留学、海外旅行、ボランティア活動などで学んだことは、今後の人生の糧になると思います。これからも、大学で得たことを大切に社会人として頑張ってください。

考える力を養う



経済学部
前崎直哉

法政大学入学が決まったとき、全日本テニス選手権大会への出場と教員免許の取得を目標に設定しました。

しかし、何をしていたか分からず、漠然と日々を過ごしていました。そんなとき、法政大学テニス部のOBの方と夕食を一緒にする機会があり、「一流にならなくてもいい。一流にどうすれば立ち向かえるかを考えてプッシュしろ。それが君の財産になる」という言葉をいただきました。

それからは相手が嫌がるようなプレーやテクニックを習得するため、他の選手が取り組まないことに挑戦し、他の選手がけました。フォームの撮影やプロ選手の映像を見ての研究にも時間を費やしました。たくさん大会に出場し、さまざまな大会でテニスの選手と試合をする経験を積むことで、オリジナルのプレースタイルを確立してきました。日本代表の選手に、勝利を収めることもできました。

性がある授業を展開することを心がけました。生徒からの反応もよく、得がたい経験ができました。春からは、教員として高校の教壇に立ちます。大学で養えた考え方を、惜しみなく生徒に伝えていきたいと思っています。最後に、4年間私に関わってくれた全ての方々に、ありがとうございます。ありがとうございました。



全日本選手権に応援に来てくれたテニス部同期との一枚

初めての親孝行



経済学部
菊池優介

私は他の多くの学生とは違い、高等学校卒業程度認定試験(高卒認定)に合格してから、法政大学に入学しました。

高校を中退し、無気力な生活を送っていた私は、18歳のある日突然に、大学で真剣に勉強をしたいと強く思いました。大阪に住む親元を離れ、東京の大学に進学しようと決意したのです。そこから必死に受験勉強を頑張る、晴れて法政大学に合格することができました。

入学してからは、音楽サークルに所属して、同級生や先輩、後輩たちとバンドを組み、定期ライブや大学祭などのステージに立って、何度も演奏を楽しみました。サークル活動に没頭した日々は、生涯忘れることのない、かけがえのない思い出です。

ゼミ活動では、山本真鳥教授のゼミに所属し、文化人類学を学びました。自分の所属している社会における文化の常識を当たり前に考えず、客観的に観察し、他のさまざまな文化と比較するという考え方は、将来海外での活躍を考えている私にとって非常に有意義なものでした。法政大学に入ってからよかったと思えた瞬間

諦めない



菊池倍美

いろいろなことがあったけれど、あなたは、自分の人生を諦めませんでした。高卒認定を経て、同級生たちと同じ年に受験して、法政大学に入学。3年生のときには、2年間大学を休学してカナダに語学留学をしたり、日本中を旅したりと、たくさん思い出と出費(笑)がありました。

大学生活を満喫し、就職活動でも自分の信念を貫いて、4月からは社会人として旅立しますね。回り道ばかりでしたが、その全てがあなたの財産です。法政で培った「自由を生き抜く実践知」を全うし、何事も諦めないで頑張ってください。



多摩キャンパスの大学祭ライブステージにて